

GDPとGNIって？

経済調査部 高橋 大輝

経済の豊かさはどうやって測るの？

日本では現在、経済の豊かさを測る指標としてGDP（国内総生産）が一般的に使われています。GDPとは国内で生み出された付加価値の合計のことです。生産、支出、所得は同じ金額になる（三面等価の原則）ことから、付加価値が多く生み出されるといことは所得も同じだけ生み出されていると考えることができます。そのため、GDPは経済の豊かさを測る指標として使われてきました。

最近では経済の豊かさを測る指標としてGNI（国民総所得）にも注目が集まっています。GNIは、GDPに海外からの所得を加えたものに等しくなります（資料1）。「日本再興戦略－JAPAN is BACK－」（首相官邸）によると、政府の掲げる成長戦略のもとで一人当たりの名目GNIが10年後には150万円以上拡大するだろう、とあります。

GDPとGNIの違いって？

GDPとGNIの大きな違いは経済の豊かさを「国内」と「国民」どちらで捉えるかです。GNIでは「国民」が国内、海外を問わず稼いだ所得が計算されますので、「国民」の所得面を考える場合にはGNIの方が実感に近いのではないかと考えられます。海外での活動が増えてきたことなどから、最近ではGDPとGNIの差も大きくなってきました（資料2）。

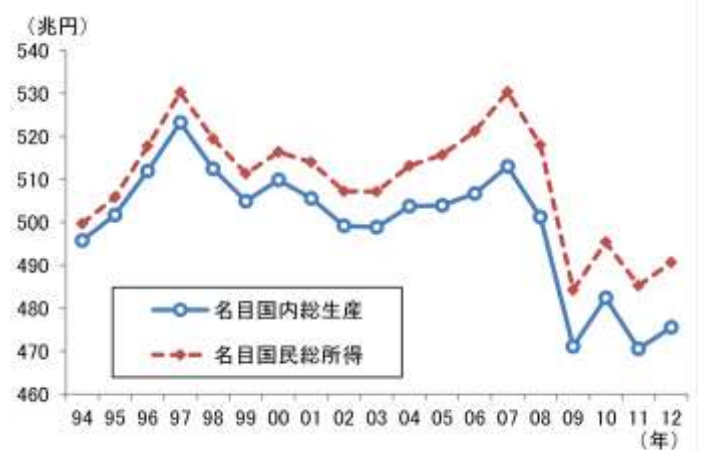
ただ、GNIが150万円増加することと個人の年収が150万円増加することは異なります。GNIの内訳をみると雇用者報酬（おおむね賃金に相当）は半分程度となっています（資料3）。ですが、企業の所得が上がると賃金の上昇や株価の上昇などから、家計の所得の増加に繋がる可能性があります。家計の豊かさを考える上でGNIの動向は重要といえるでしょう。

資料1 GDPとGNIの概念



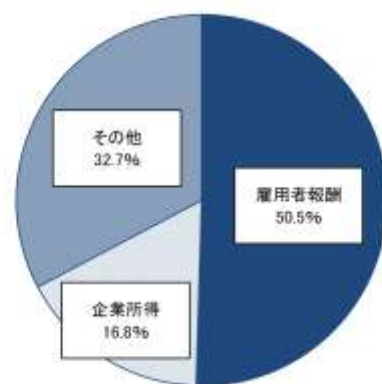
(備考) 筆者作成

資料2 GDPとGNIの推移



(出所) 内閣府「国民経済計算」

資料3 GNIの内訳 (2011年)



(備考) 内閣府「国民経済計算確報」により筆者作成